

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 筒井 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.1	65	9.0	64
全国	8.9	64	9.3	67

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ● 全体的によくできており、特に「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の領域は正答率が高かった。 ● 無解答も全体的に少ないが、漢字を正しく書く問題は無解答率が高く、課題がある。
	よくできた問題	● 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる問題。目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく問題。
	努力が必要な問題	● 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く問題。文章の中で適切な漢字を正しく書く問題。
算数	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ● 無解答が全体的に少なく、記述式の問題にも粘り強く取り組んでいた。 ● 「数と計算」「量と測定」「数量関係」については、よくできていたが、「図形」領域は、正答率が低かった。
	よくできた問題	● 資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述する問題。
	努力が必要な問題	● 示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述する問題。図形の性質や構成要素に着目し、他の図形に置き換える問題。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えがうまく伝わるように工夫して発表したり、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した児童の割合が高い。 ・ 「家で自分で計画をたてて勉強している」と回答した児童の割合は、全国平均と比べると高いが、「学校での授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)1時間以上勉強している」と回答した児童の割合は55%で全国平均と比べると低い。 ・ 「毎日決まった時刻に寝る・起きる」「朝ご飯を食べる」と回答した児童の割合は高く、基本的な生活習慣は身に付いていると考えられる。 ・ 「将来の夢や目標をもっている」の項目に肯定的回答をした児童の割合は全国平均より高いが、「自分にはよいところがある」の項目で肯定的な回答をした児童の割合が低い。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着 <ul style="list-style-type: none"> ・ 朝の活動「チャレンジタイム」では、曜日ごとに内容を決めて全校一斉に同じ取組を継続して行う。(月曜日:算数、火曜日:読書、水曜日:計算、木曜日:造形タイム、金曜日:音読・視写) ・ 1年生は多層指導モデル(MIM)、2年生は計算ドリル、3年生以上は、学力定着サポートシステムを活用し、児童のつまづきを分析し指導に生かす。 ・ 授業の中で、「話し合う活動」「書く活動」を位置付け、終末では、児童が学んだことを振り返ることができるよう、「振り返り」の時間を確保する。 ○ 自尊感情の向上に向け、道徳や特別活動、縦割り活動などの充実を図る。(外部講師や地域人材の活用)
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭学習の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭学習は概ね定着しているので、今後は自主学習により一層取り組むよう、よい取組のノートの掲示を行い、自主学習への意欲を高める。 ○ メディアとの接触時間の再考 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1日の生活の中でのテレビやビデオ、携帯やスマホに費やす時間が長いことが、家庭学習の妨げになっていると考えられる。メディアとの接触時間の見直しや携帯・スマホの使い方については、学校だよりや懇談会、外部講師を招いての講演会など、様々な機会をとらえ、保護者へも啓発を行っていく。
